

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、県との差を4～6ポイント以内にする。

3. 指標にむけての取組

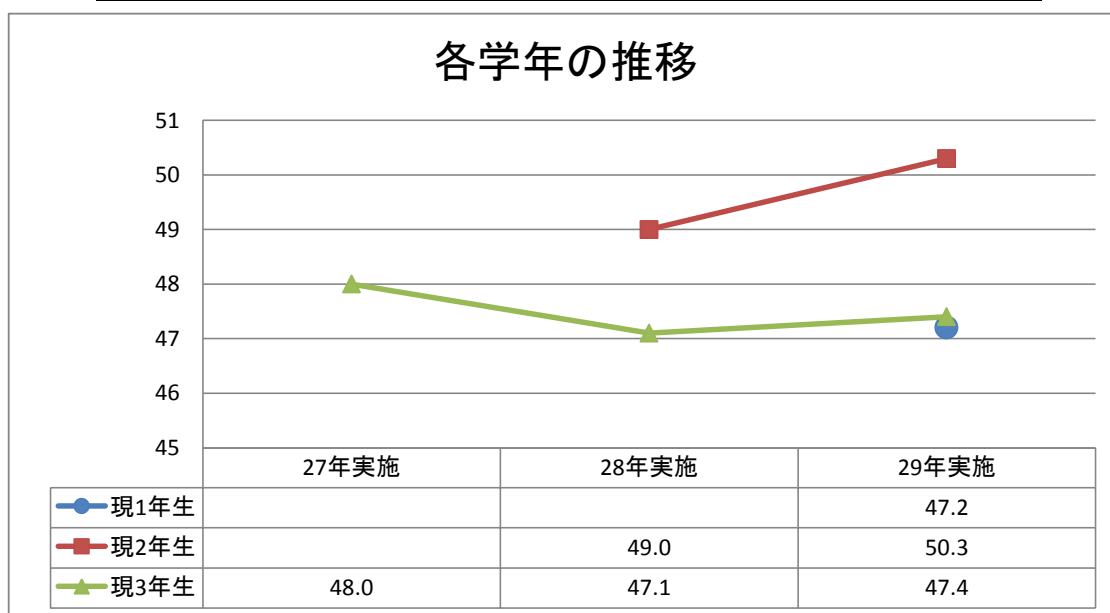
- ・授業力向上のために、一人一回の授業研の実施と指導主事を招聘した全体研修会の実施。
- ・「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や「確かめシート」、「対策プリント」の有効活用。
- ・家庭学習の定着を図る週末課題と自学ノートの徹底と継続指導

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	47.0	45.7	46.0	47.8	48.3
嘉麻市(B)	45.6	46.6	47.0	47.3	47.9
(A)－(B)	1.4	-0.9	-1	0.5	0.4
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3	-4.3	-4	-2.2	-1.7

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・一人一回の授業研や指導主事を招聘した全体研修によって、授業力が向上し、学力向上も図ることが出来てきている。
- ・家庭学習習慣の定着を図る週末課題を徹底したことで、休日の家庭学習に取り組む生徒が増加し、学力向上を図ることが出来た。
- ・「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」や「過去問などの対策プリント」などを活用して、授業を行ったり週末課題や自学ノートの取組の徹底を図ったことは、学力が中位以上の生徒に有効であったが、学力が低位の生徒にはあまり有効でなかった。

6. 各学校における今後の取組

- ・家庭学習の定着を図る取組では、各教科で生徒の学力実態に応じた家庭学習課題を用意する取組(基礎問題と発展問題の2種類)と課題の提出率を上げる取組(提出率100%)を徹底する。
- ・定期考査単位ではなく、各教科で単元ごとに振り返り(形成的評価)を行い、未定着な内容については、補充的な学習を実施する。
- ・学習内容の定着が不十分な内容については、「山中中タイム」(仮称)を設定して、習熟度別の補充学習や3年生では放課後学習会を実施する。
- ・一人一回の授業研は今年度も継続して実施する。
- ・1・2年生は90分以上、3年生は120分以上の家庭学習(放課後学習や塾の学習時間を含む)を目標として設定し、生活ノートに毎日の学習時間を記録させ、70%以上の達成率を目指す。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。また、個の学習課題に応じるため、週末課題の個別化を推進する。

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。さらに、長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。